

野辺地町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（概要版）

ポイント

現状分析

・当町は「自然減」と「社会減」の両面から、急激な人口減少と少子高齢化が進行している。

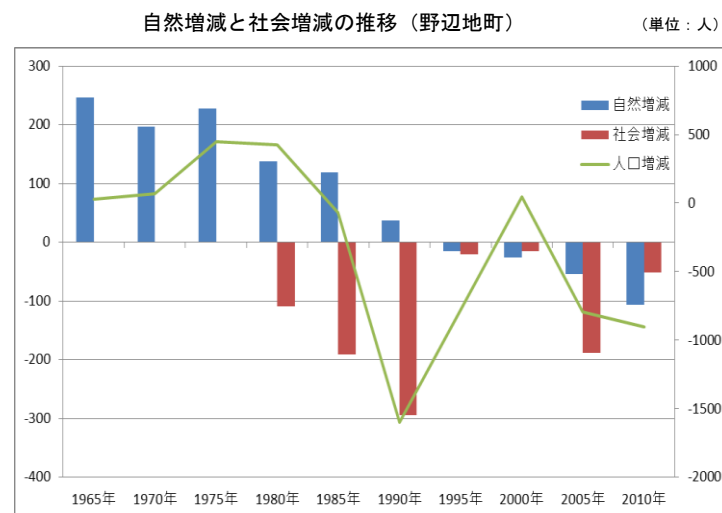
将来展望

- ・自然減対策では、**若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境づくり**や**将来を担う人財育成**（社会減対策にも通じる）、社会減対策では、当町の資源を最大限に活用した**しごとづくり**、**若者の定住と町外からの移住促進**などを進める必要がある。
- ・このまま推移すると、町人口は**2060年（平成72年）には2010年（平成22年）から60.1%減少の5,712人**にまで減少する見込みだが、施策展開により仮定を実現した場合は、**減少率44.0%の7,800人台を維持でき、老年人口比率も30%台まで改善**する。

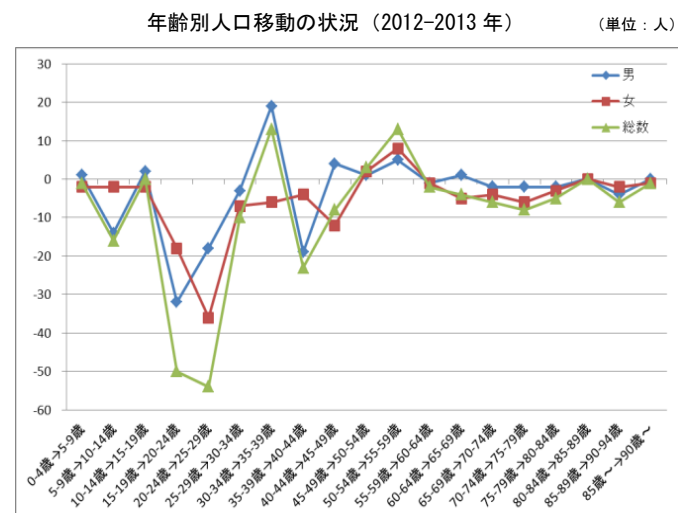
現状分析

人口の推移

- 町人口は1995年（平成7年）頃から自然減へ。
- 就学・就職などで県内他市町村や首都圏などへの若者の転出が顕著。自然減と社会減の両方が進行。



資料）総務省「国勢調査」、「住民基本台帳移動報告」
野辺地町統計書「昭和58年4月版」、「平成5年3月版」



資料）総務省「国勢調査」、「住民基本台帳移動報告」
野辺地町統計書「昭和58年4月版」、「平成5年3月版」

将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

- 2060年（平成72年）に町人口は5,712人となる見込み。
- 人口減少は段階を経て推移する。当町は、老年人口が増加、年少・生産年齢人口が減少する段階だが、今後は老年人口も減少していくとされる。
- 高齢者一人当たりの生産年齢人口は1.0を下回り、一人の高齢者を一人の現役世代で支えられない状況が見込まれる。

「人口減少」が社会に与える影響

- 労働力人口の減少が経済規模を縮小させ、さらなる人口の流出が懸念される。
- 高齢化の進行により、既存の地域コミュニティの維持が困難となるほか、地域文化の伝承にも影響。

将来展望

今後の基本的視点

- 「自然減」と「社会減」が相まって進行する当町の人口減少問題は「待ったなし」の状況。
- 出生率向上に向けた取組と移住促進の取組を官民協働で進め、人口減少のスピードを緩やかなものにしていく必要がある。

目指すべき将来の方向

社会減対策

① 郷土の生業を創る

地域における安定した雇用創出に向け、町の資源を最大限に活用した産業振興、雇用開発、企業誘致に取組む。

② 郷土の住みやすさを実現する

若者や移住者が定住しやすい環境作りに向け、「ワーク・ライフ・バランス」のより良い実現を目指す生活環境の整備に取組む。

自然減対策

① 郷土の人の身体と心を守る

次世代を担う若年人口の増加に向け、若い世代が安心して働き、子どもを産み育てられる環境づくりに取組む。

共通

① 郷土をますます愛し育む「人財」を育てる

進学等で町外に流出した人財が町内に帰ってこられるような環境作りに向け、多くの分野で活躍し、町の魅力を広く発信できる人財育成（確かな学力・豊かな心・健やかな体）に取組む。

人口の将来展望

目指すべき将来の方向に沿って対策を進め、以下の仮定を実現した場合、総人口は2060年（平成72年）で7,800人台を維持でき、老年人口比率も徐々に改善されることから、持続可能な地域社会の維持が可能となる。

<将来展望での仮定>

- ① 合計特殊出生率…2030年に1.8、2040年に2.07に上昇（＝国・青森県ビジョンに準拠）。
- ② 社会減…2020年以降に減少幅が縮小開始。2040年に移動均衡（＝国・青森県ビジョンに準拠）。

